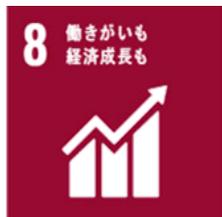


福井の家業後継者 実態調査 分析結果

2024-09-02



福井商工会議所青年部（福井YEG）
政策提言プロジェクト

調査の背景

人口当たりの社長の割合が日本一高いと言われており、**家族経営の企業が多いことが1つのアイデンティティとなっている福井県**。そのような地域性から独自の経済発展を遂げるとともに、中小企業が地域振興の担い手としても積極性を発揮してきた経緯がある。

しかし近年では**後継者不在で廃業を検討する企業や、実際に廃業に至る企業が増加傾向にある**。その現状を踏まえて後継ぎを支援する税制面の施策や補助金、あるいは第三者継承のマッチングなど「手法」については様々な支援策が整備されはじめている。それらの支援策は、継ぐと決めた方や既に継いでいる方には有効である一方、継ぐかどうか未検討の方や、継ぐことを意識しているがまだ向き合っていないような方には、支援が届きづらい現状がある。

また「**家業を継ぐ人を増やす**」ことを考えた時に、**家業を継ぐための「手法」ではなく、家業を前向きに捉えられる「価値観」を醸成する機会をつくる**ことが有効だと考えられる。

家業後継者候補が「家業を継ぐことの価値」を捉えなおし、実際に家業を継ぐ人の裾野を広げることこそが福井の後継ぎ不足の本質的な課題解決方法であり、ひいては福井を活性化する起爆剤になる。

そのためまずは家業後継者の実態を把握し、**関係各所と連携して有効な施策を検討するための基礎データ**をつくる必要があると考え、本調査の実施に至った。

【参考】福井県「後継者不在率」動向調査(2023年、帝国データバンク)

https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/s231101_39.pdf



・2023年の調査において福井県の中小企業における後継者不在率は5年連続で前年を下回り、52.7%と過去最低の水準となっている。



[注1] 2021年までの数値は、過去調査時の最新データ

[注2] [M&Aほか]は、買収・出向・分社化の合計

・2019年以降の事業承継のうち「同族承継」は低下傾向、「M&Aほか」が増加傾向にあり、脱ファミリー化の流れが続いている。

調査の概要

【目的】福井の家業後継者の支援施策を検討し政策提言するための基礎データを収集する

【調査対象】福井県内の家族経営の会社の後継者にあたる方(継がない方も含む)、年齢・性別は不問

【調査主体】福井商工会議所青年部

【調査期間】2024年7月3日～7月20日

【調査方法】Googleフォームでアンケートを作成

【周知方法】福井県内の経済団体(青年会議所、経済同友会、商工会、商工会議所青年部)に協力依頼を送付、
福井県産業労働部経営改革課のアンケート調査に協力依頼を同封、福井商工会議所青年部のHPやSNSで告知

【分析手法】「既に継いだ、または継ぐ意思がある」方と「継がない、または継ぐ・継がないを決めていない」方の回答を比較分析した。

【回答数】236回答

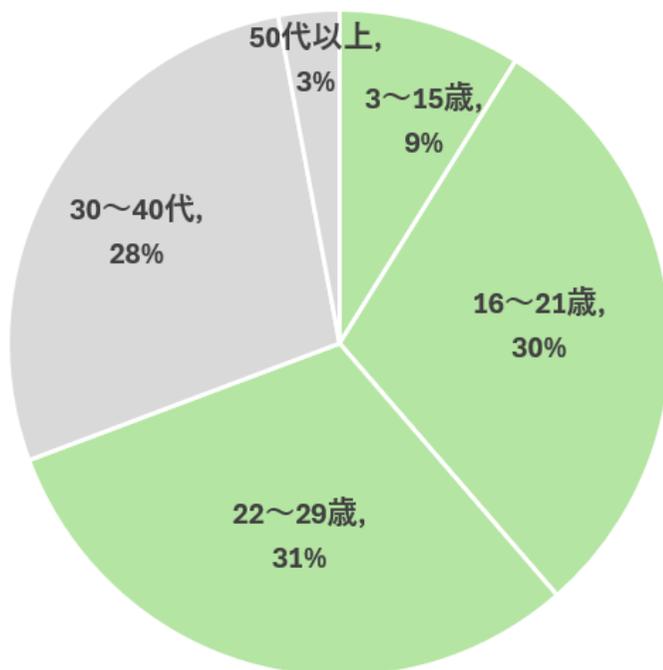
- ・下記の通り回答者を分類し、分類ごとに違う質問を回答していただいた。
- ・サンプル数の限界があるため、分析においては「既に継いだ、または継ぐ意思がある」と「継がない、または継ぐ・継がないを決めていない」に大きく分類して分析することとした
- ・「継がない、または継ぐ・継がないを決めていない」のサンプル数が24と少ないので留意が必要ではあるが、元々サンプルが非常に取りづらい対象であり、また回答内容にはハッキリと傾向があるものが多いので、貴重な意見として分析する価値があると判断した。

大分類	小分類	回答数
既に継いだ、 または継ぐ意思が ある方	既に継いでおり、経営の実権は自分にある	120
	既に継いでおり、経営の実権の一部は自分にある	42
	既に継いでいるが、経営の実権は未だにない	8
	継ぐ意思があり、家業に従事している	37
	継ぐ意思があるが、まだ家業に従事してはいない	4
継がない、 または継ぐ・継がない を決めていない	継ぐ継がないを決めていないが、自分なりに情報収集や検討をしている	3
	継ぐ継がないを決めていないが、特に情報収集はしていない	4
	継ぐ気はないが、気にはなっている	8
	継ぐ気はないし、家業への関心もない	9

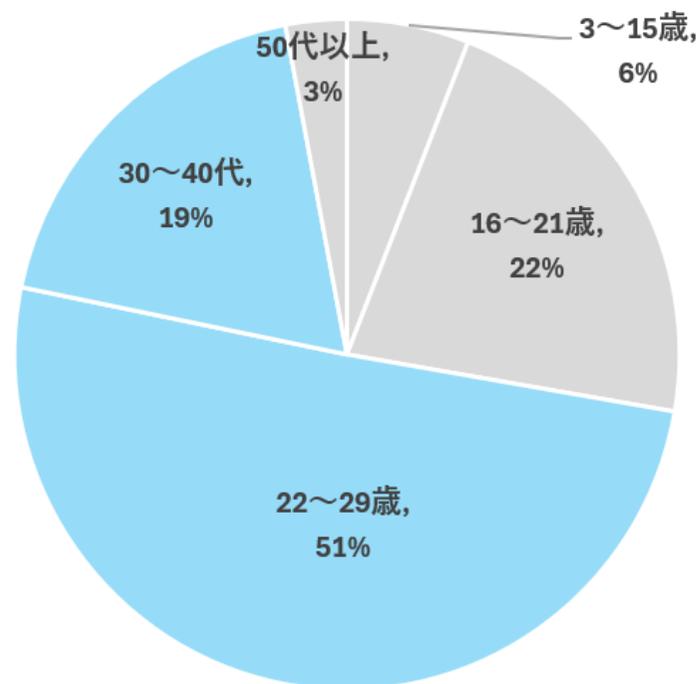
「家業を継ぐ・継がない」は何歳までに意思決定しているか

- ・家業を継いだ方やこれから継ぐと決めた方は、21歳(大学を卒業する年齢)までに約40%の方が意思決定している。また29歳になるまでに約70%の方が家業を継ぐことを意思決定している。
- ・家業を継がないと決めた方は22歳(社会人になってから)以降に意思決定している方が70%という結果になった。

家業を継いだ方・継ぐ意思がある方



家業を継がない方・継ぐか決めていない方

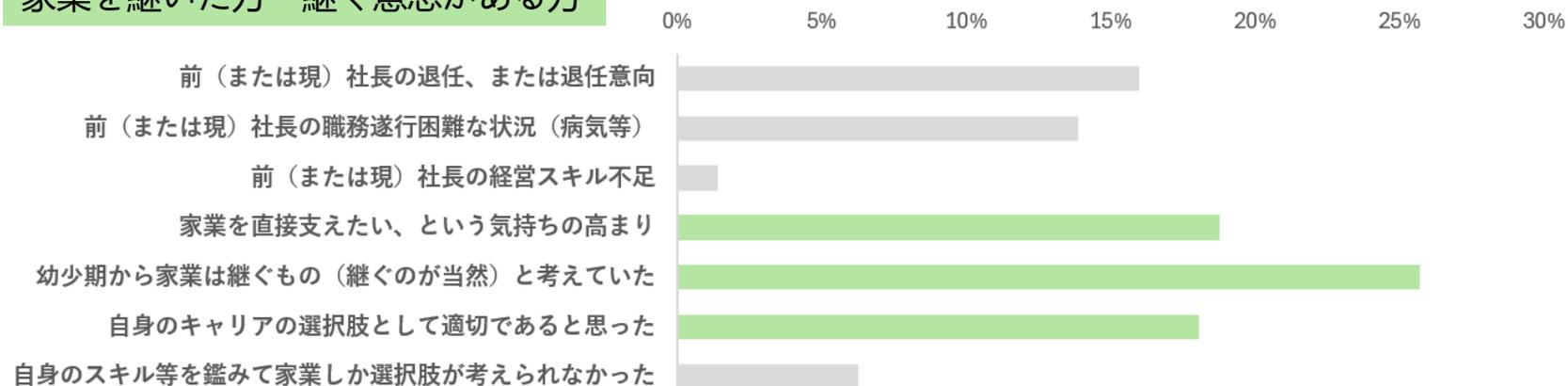


実際に家業を継ぐ方は、比較的若いころから「家業を継ぐ」と決めており、

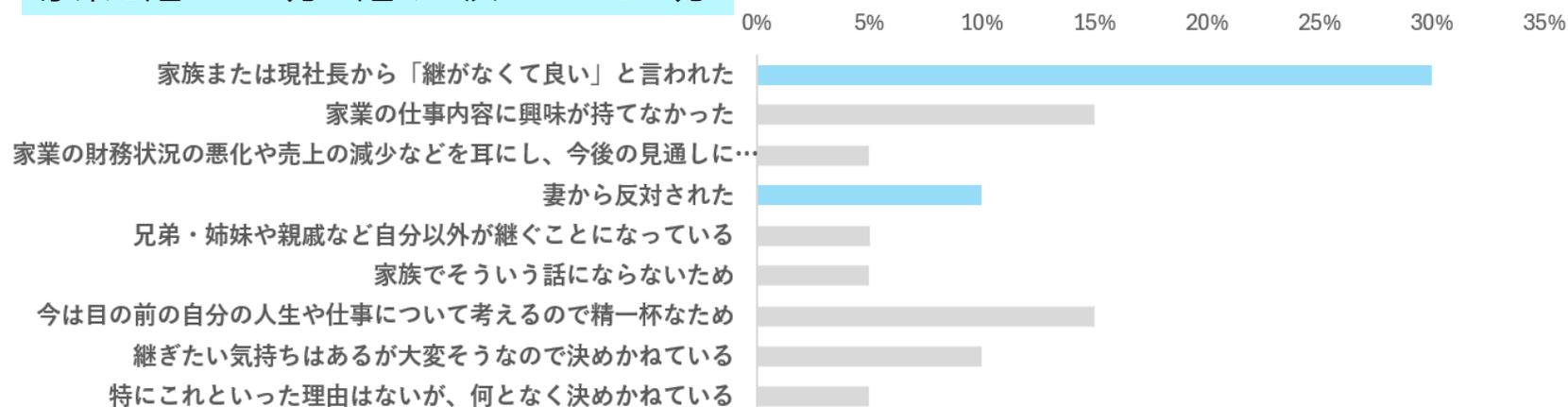
「家業を継ぐ・継がない」を決めたきっかけ

- ・家業を継いだ方は「幼少期から家業は継ぐのが当然と考えていた」「家業を直接支えたいという気持ちの高まり」「自身のキャリアの選択肢として適切だった」の3つの要因が多く、自主的に選択している方が多かった。
- ・家業を継がない方は「家族または現社長から継がなくて良いと言われた」「妻から反対された」など周囲の影響を受けて選択している方が40%近くを占めた。

家業を継いだ方・継ぐ意思がある方



家業を継がない方・継ぐか決めていない方

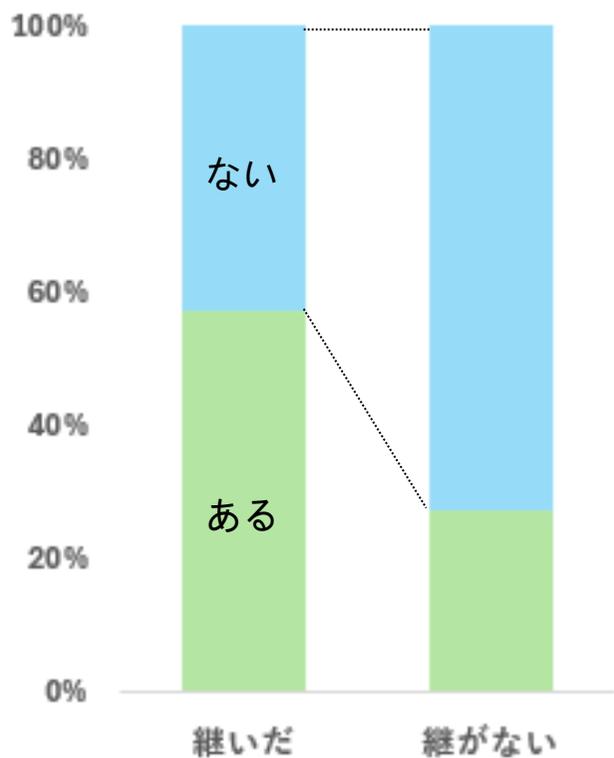


家業を継ぐ方は内発的な動機で意思決定しており、継がない方は周囲の意見によって意思決定している方が多い。

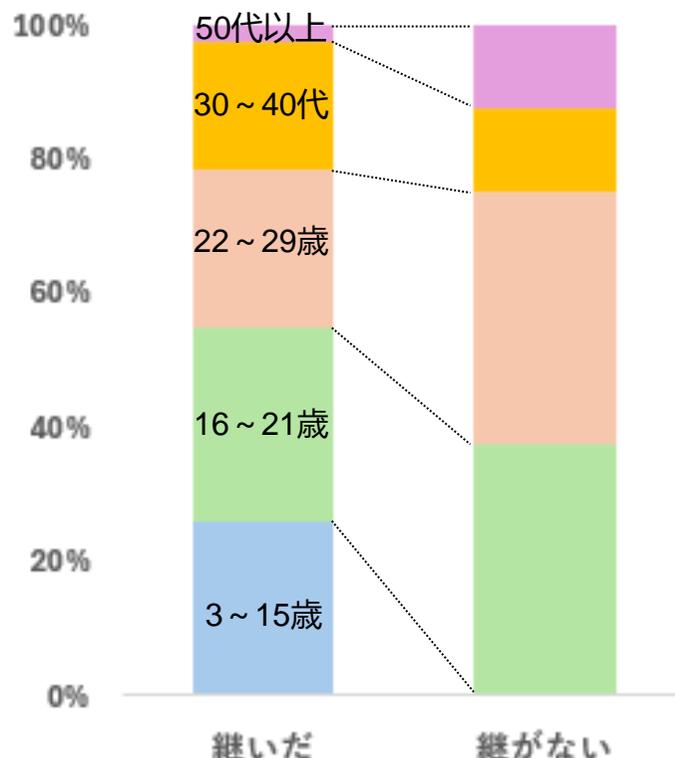
家業を継ぐことについての家族からの意思表示とその影響

- ・家業を継いだ方は、比較的若い時に家族から「家業を継いでほしい」という意思表示がある方が多く、それが家業を継ぐ意思決定に影響を及ぼしていると回答した方が多かった
- ・逆に家業を継がない方は家族から「家業を継いでほしい」という意思表示がない方が多く、意思表示があった方でも家業を継いだ方と比較すると年齢を重ねてからの意思表示となっており、それが自分の意思決定に影響したと回答した方は比較的少ない結果となった。

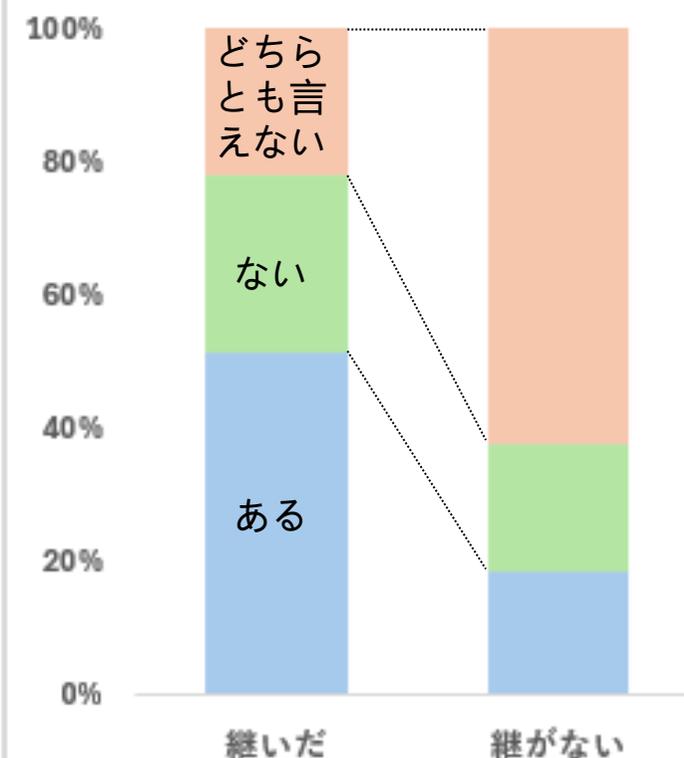
家族から継いでほしい
意思表示があったか



何歳ごろから
意思表示があったか



意思表示は継ぐ・継がない
の決断に影響があったか

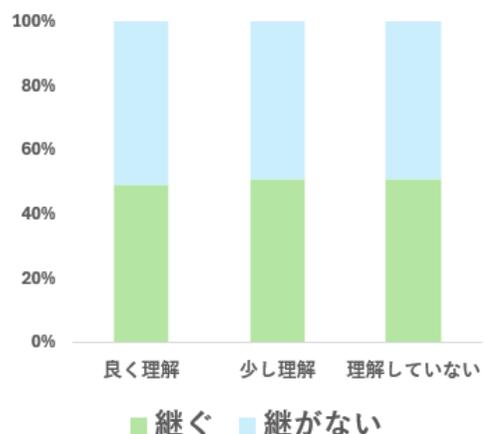


家業を継ぐ方は若いころから家族に「家業を継いでほしい」という意思表示を受けており、その意思表示に影響を受けている方が多い。

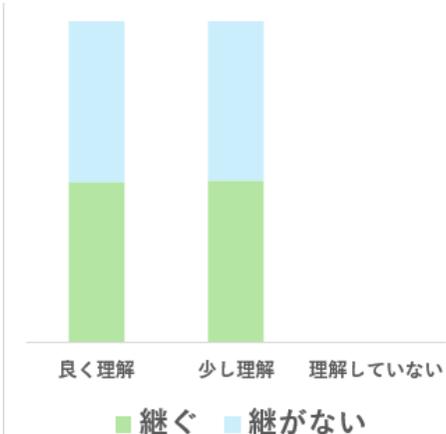
「家業を継ぐ・継がない」を意思決定した際の家業に対する理解度

- ・仕事内容や組織の状況については、両者の理解度に有意な差が見られなかった。
- ・家業を継いだ方は継がなかった方と比べて自社の「財務状況」や自社の属する「業界の展望」についての理解度が低く、経済合理性で意思決定しているわけではないことが伺える結果となった。

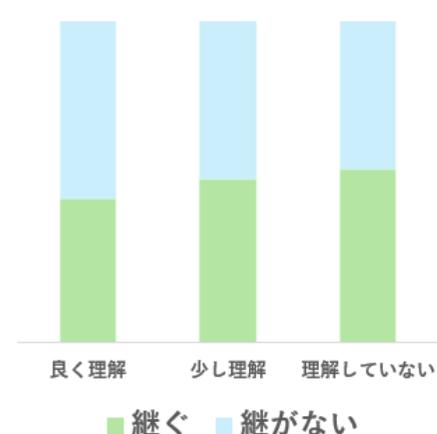
仕事内容について



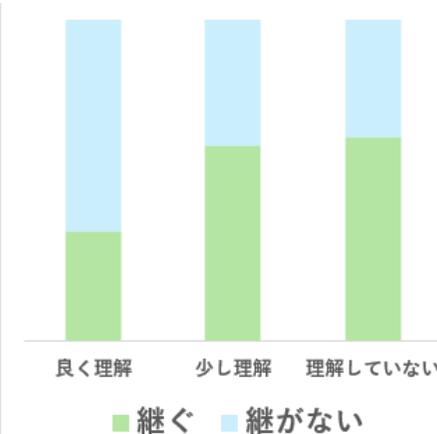
組織の状況について



財務状況について



業界の展望について

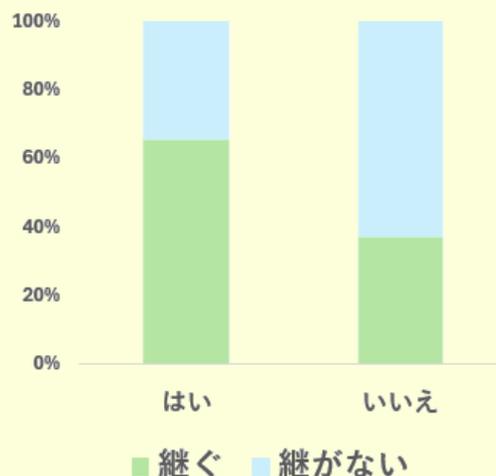


補足分析

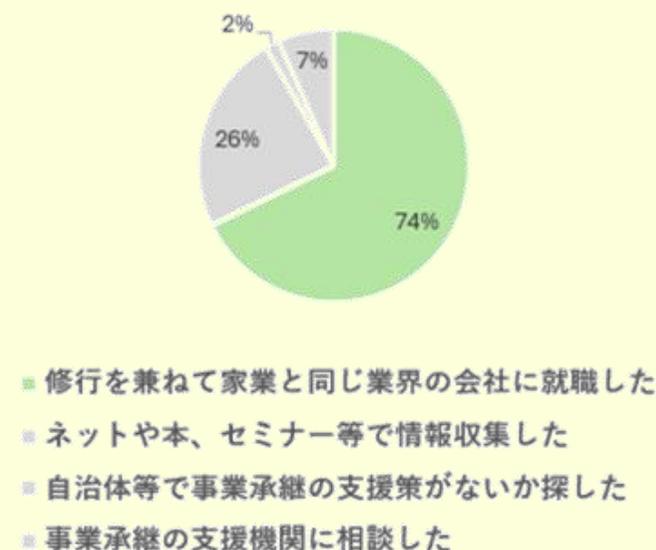
- ・家業を継いだ方は学生時代に家業の手伝いをしていた割合が高く、家業を継がない方は手伝いをしたことがない方が割合としては多い。
- ・家業を継いだ方だけの設問だが、家業を継ぐことを意識したアクションとして「修行を兼ねて家業と同じ業界の会社に就職した」という方が70%を超えている。

家業を継ぐ方は親から聞いた話やネットの情報収集だけでなく、**現場で自ら体験したこと**から意思決定している**可能性が高い**。

学生時代(小～大学生)に家業の手伝いをしましたか？



家業を継ぐことを意識したアクション



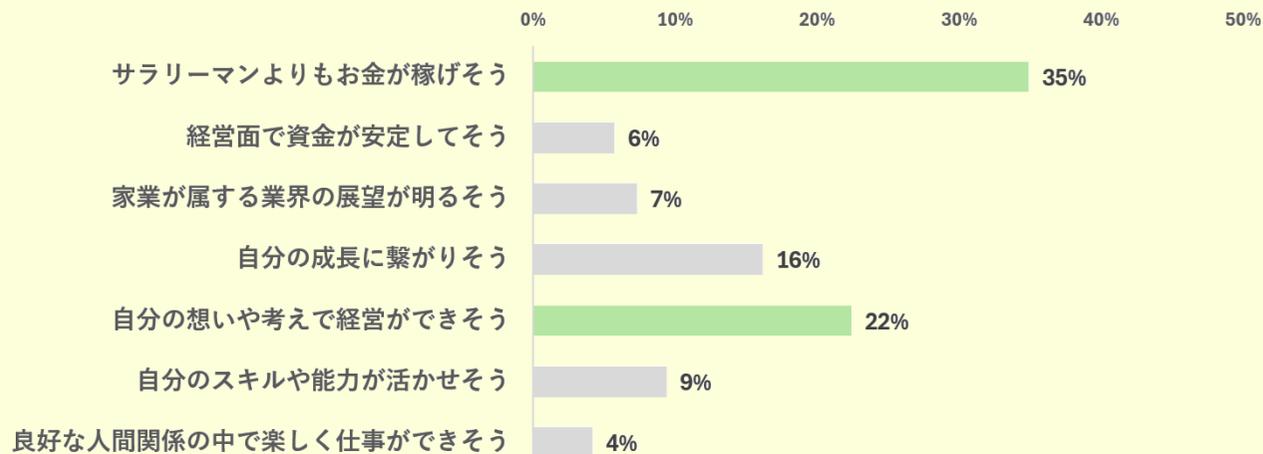
継ぐ・継がないを決めた際の「家業に対するイメージ」と、意思決定後のイメージ変化

- ・「サラリーマンよりもお金が稼げそう」「自分の想いや考えで経営できそう」というイメージをもともと持っていた方が多く、継ぐと決めた後にそのイメージに変化した方も多かった。
- ・家業を継ぐと決めて家業との関わりが深くなるにつれ「**自分の成長に繋がりそう**」というイメージに変化した方も多かった。

Before

【家業を継ぐと決める前】

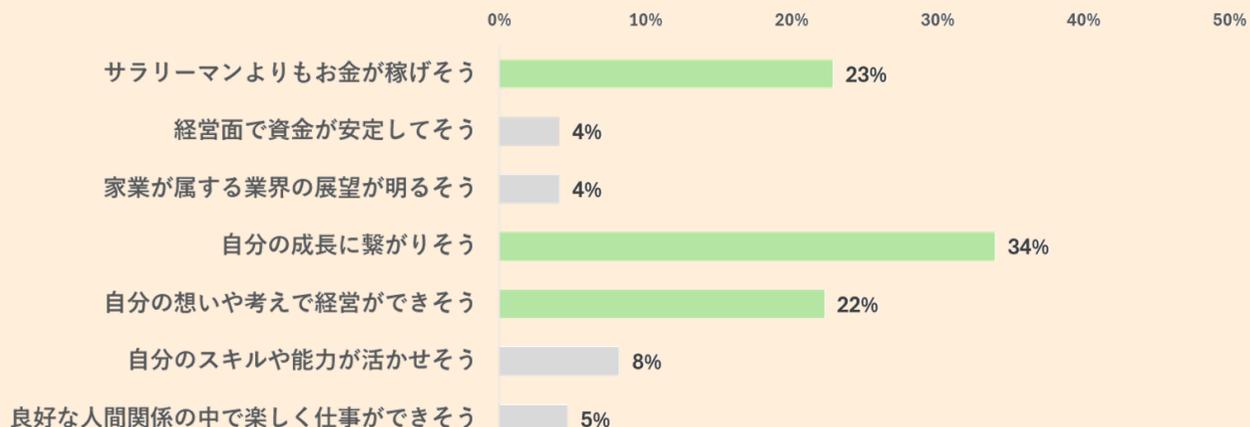
家業へのポジティブなイメージを教えてください



After

【家業を継ぐと決めた後】

家業へのイメージの中で**ポジティブに変化したもの**を教えてください



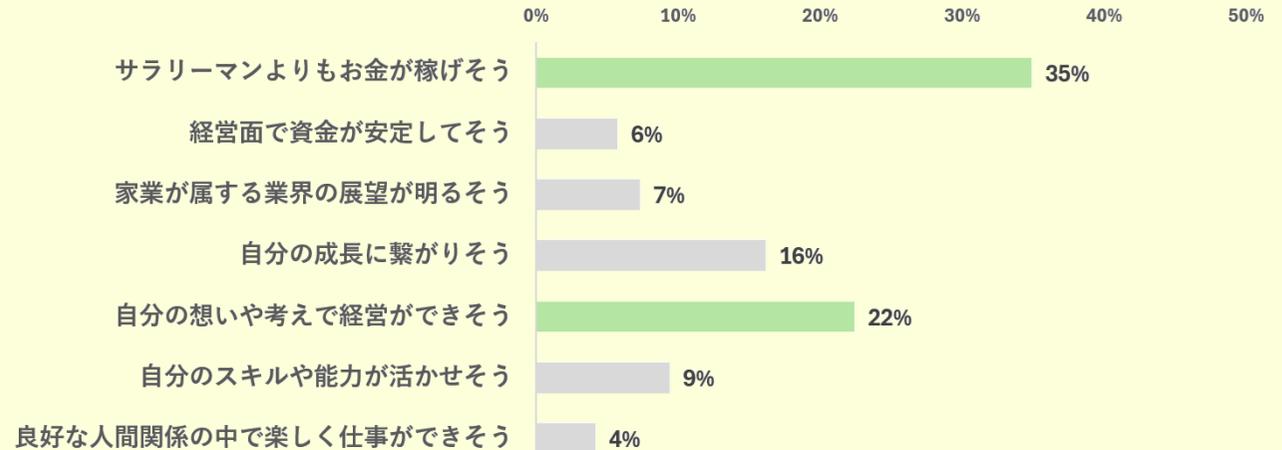
継ぐことを決めた後にネガティブに変化した家業イメージ

- ・家業との関わりを深める中で最もネガティブに変化したイメージが「**経営面で資金に不安がありそう**」の項目だった。この危機感が次ページからの「家業後継者が家業に起こす変化」に繋がると思われる。
- ・次に多かったネガティブ変化が「サラリーマンの方がお金が稼げそう」というイメージだった。

Before

【家業を継ぐと決める前】

家業へのポジティブなイメージを教えてください



After

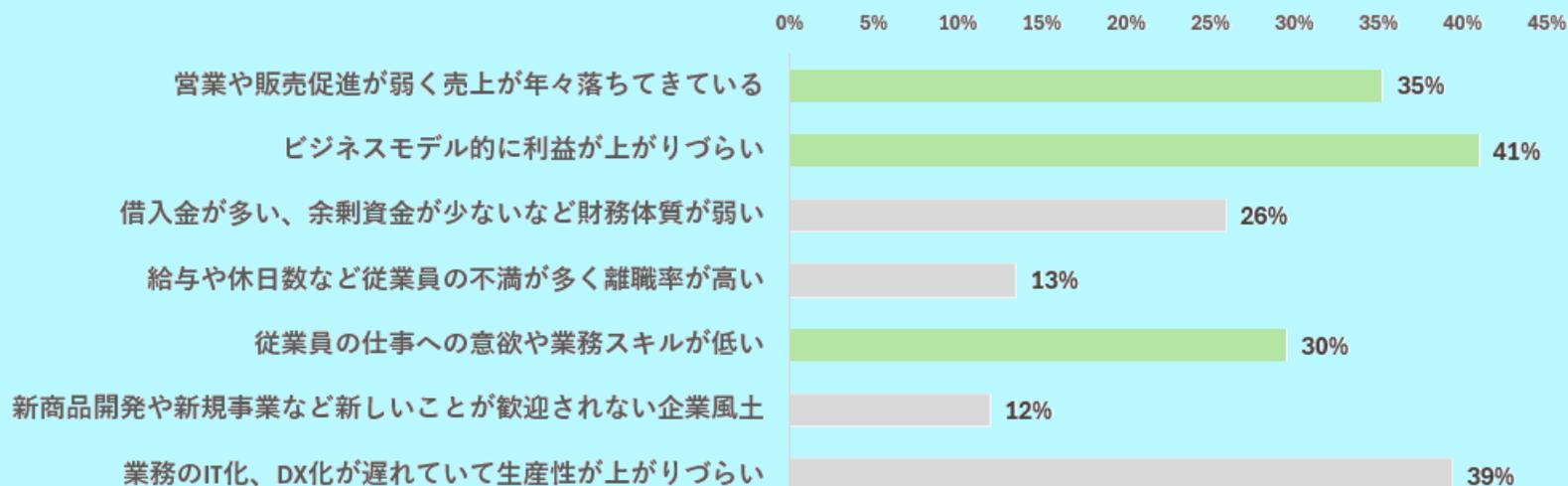
【家業を継ぐと決めた後】

家業へのイメージの中で
ネガティブに変化したものを
教えてください

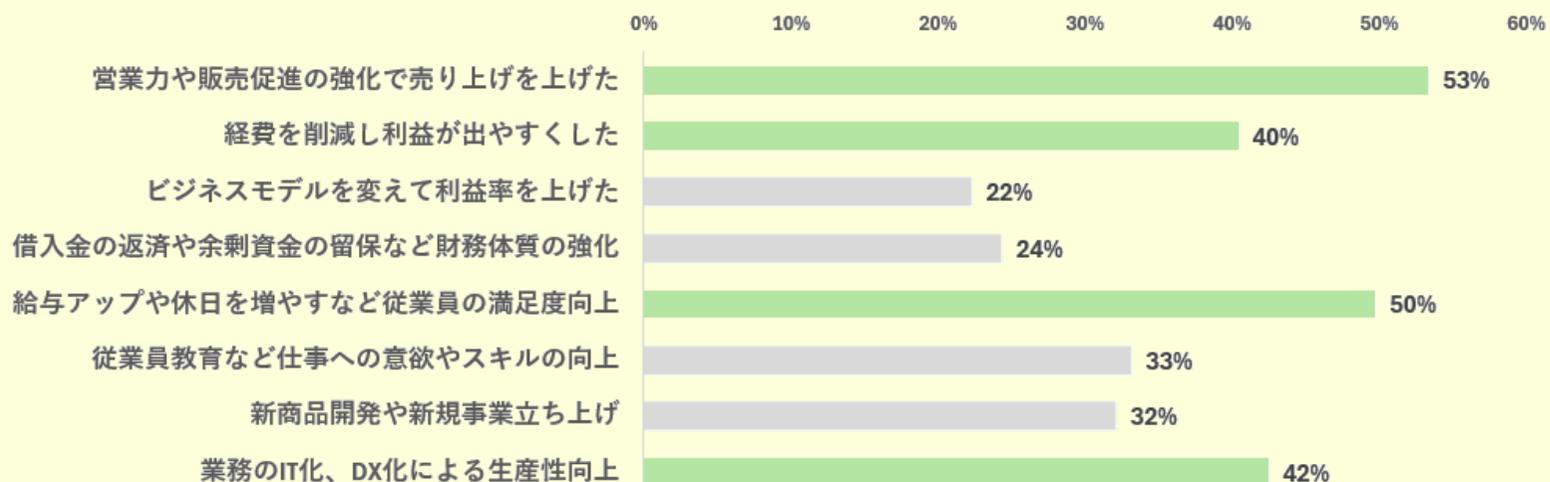


家業後継者が家業に起こす変化

家業に入ってからこれまで、会社のどんなところに課題を感じましたか？



家業に入ってからこれまで、ご自身が中心となって変えたことや新たに始めたことをお答えください

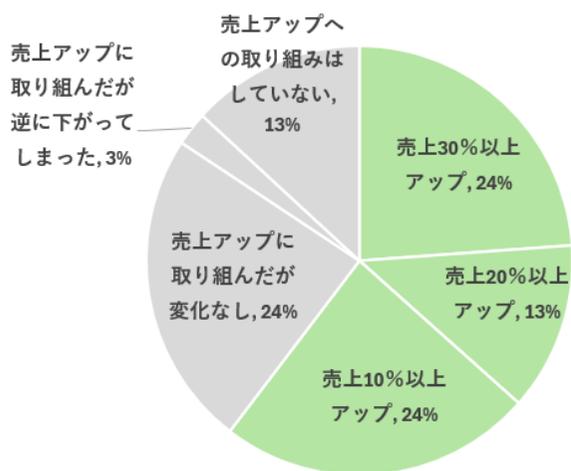


家業後継者の多くが**自社の課題を発見し、課題解決に向けて精力的に取り組んでいる**ことが伺える

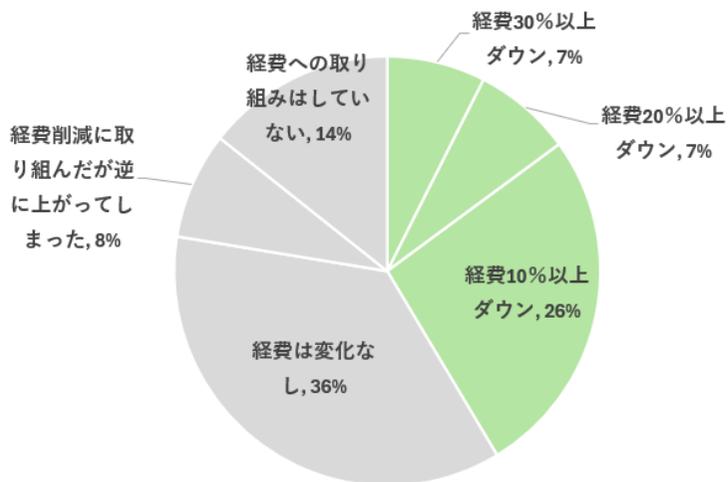
家業後継者が家業に起こす変化

- ・家業を継いだ方を対象に、「自分の努力や働きかけによって実現した変化」について回答していただいた。
- ・売上を10%以上アップさせた企業が約60%、経費を10%以上ダウンさせた企業が約40%、従業員の給与を3%以上アップさせた企業が約60%という結果となった。

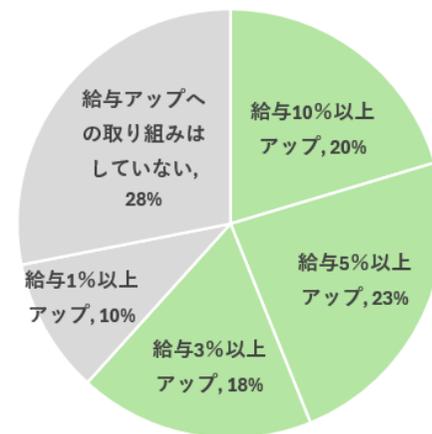
売上の変化



経費の変化



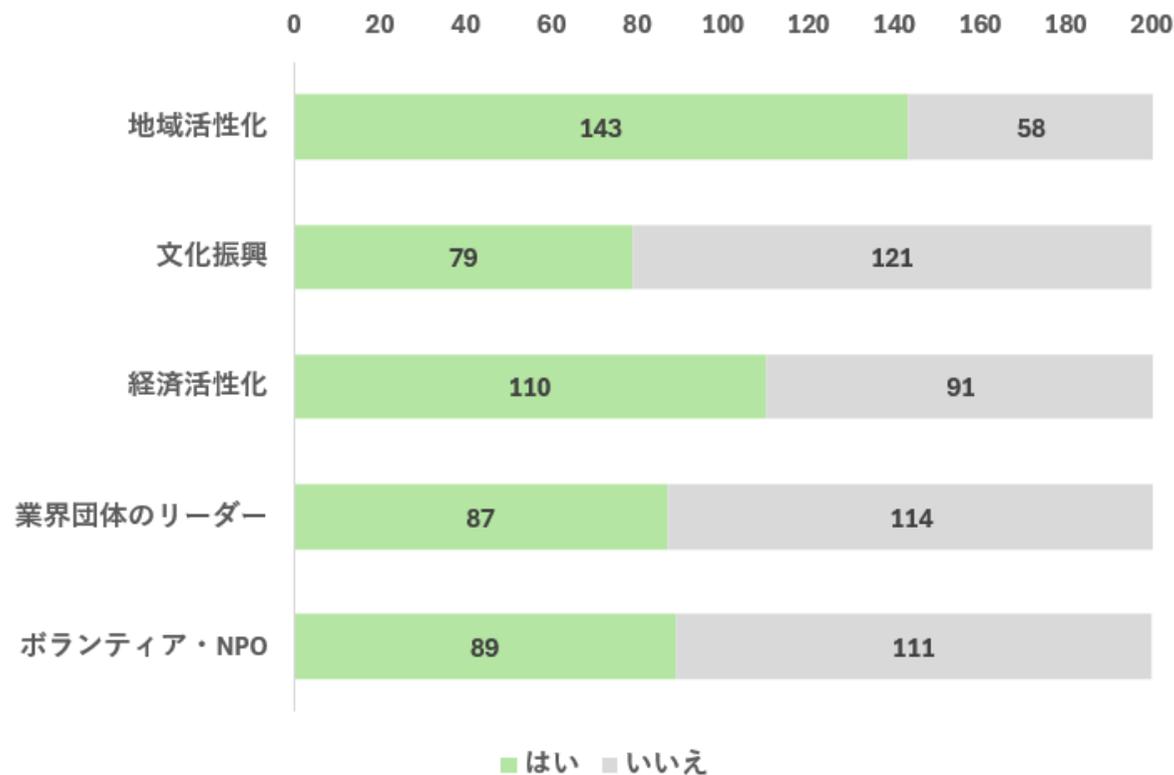
従業員給与の変化



家業後継者が実際に家業を継ぐことで**自社と自社の従業員に大きな経済的インパクトを生み出している**ことが伺える結果となった。

家業に入ってから地域での役割変化

・「家業を継いだ方」や「継ぐ予定で家業で働いている方」を対象に、地域での活動状況を伺ったところ、多くの方が自社以外の場でも何らかの活動をしていることが分かる結果となった

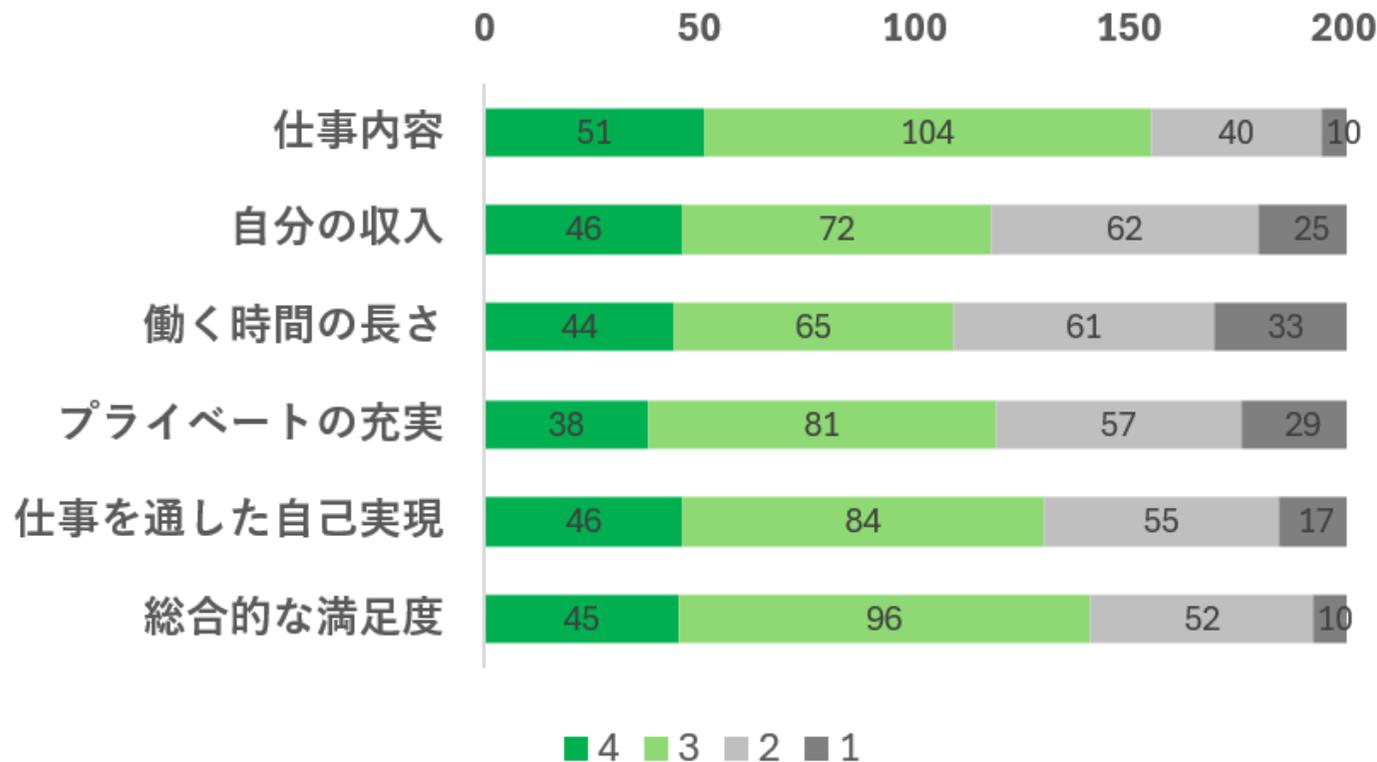


家業後継者は**自社以外の場でも地域活性化に貢献する次世代リーダー**として活動している。

実際に家業で働いてみての満足度

・「家業を継いだ」「継ぐ予定で家業に従事している」方を対象に、家業への満足度を1点(不満)～4点(満足)で評価してもらった。

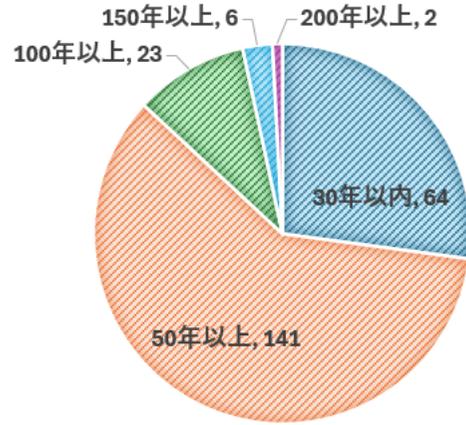
・いずれの項目も半数以上の方が「満足」「まあまあ満足」と回答しており、総合的な満足度でも70%の方が満足しているという結果となった



「継いで良かった!」と実感している家業後継者の方が、「継がなきゃ良かった」と感じる家業後継者よりも多い。

補足： 回答者の基礎情報

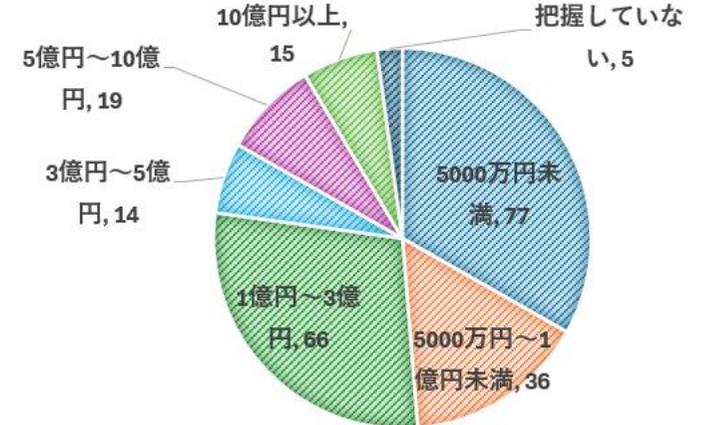
創業して何年か



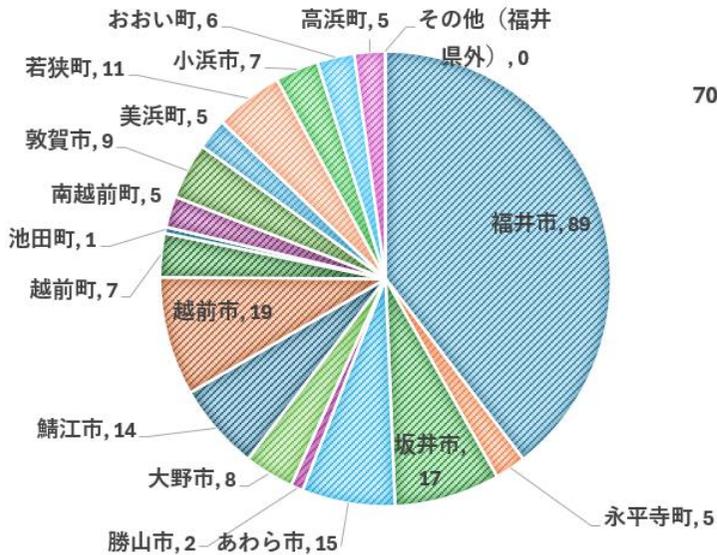
業種



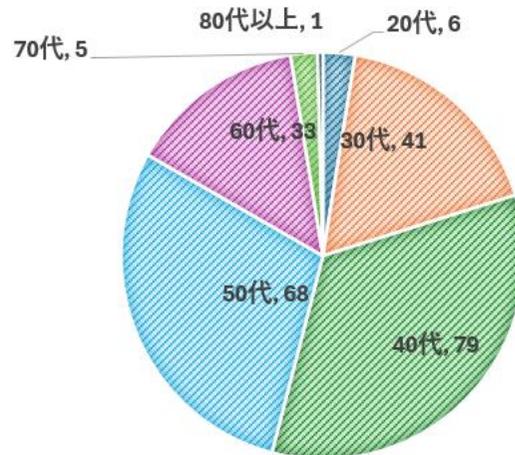
直近の年商



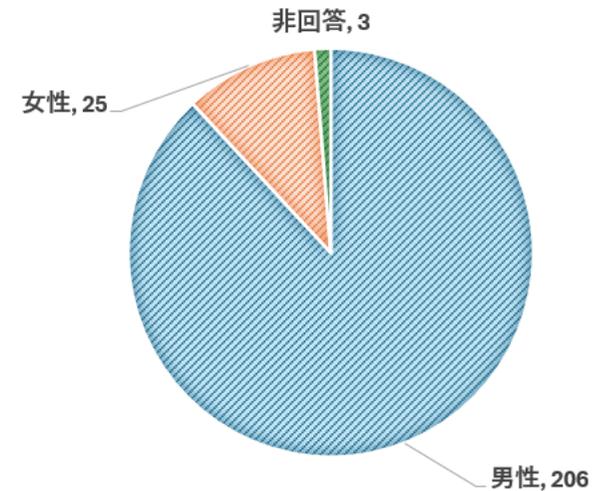
本社の所在地



回答者の年齢



回答者の性別



まとめ①

・これまでの分析から、家業を継いで家業にイノベーションを起こしていくような**家業後継者の典型例**は下記のようにまとめることができる

- ・小さいころから家業の手伝いをしている
- ・親からは「将来継いでほしい」と意思表示を受けている
- ・家業の業種を意識して進学先や就職先を決めている

若いころから家業を意識しており、高校生～大学生（社会に出る前）には家業を継ぐことを決めている

- ・どこかのタイミングで家業に入る
- ・家業の実情を徐々に理解する
- ・自社の強みや課題を把握していく

自社の強みや課題を把握しながら経営の実権を徐々に握っていく

- ・自社の課題解決のために新たな取り組みをはじめ
- ・売上や経費削減を進めるなど成功体験を積む
- ・地域活動でもリーダーとして活躍するようになる

家業を継いだことで起きた自分自身の状況（経済面やワークライフバランス含め）に満足できるよう頑張る

まとめ② 家業後継者が家業を継ぐということの価値や可能性

①企業にとっての価値/可能性

- ・会社が廃業せず安心して継続できる
- ・会社の経営方針が時代に合わせてアップデートされる
- ・従業員の待遇向上が図られる

②後継者本人にとっての価値/可能性

- ・自己実現や自己成長できる
- ・収入アップが見込める
- ・プライベートも充実する

③福井県にとっての価値/可能性

- ・売上アップや給与アップする企業が増えて税収増が見込まれる
- ・家業後継者によって地域活性化や文化振興が図られる
- ・優良企業が増えることで地元に戻ってくる若者が増える

これらの価値や可能性を、家業の経営者や後継者自身に広げていくことで継ぐ人が増えていく可能性がある

まとめ③ 家業＝ファミリービジネスを継ぐということの価値を世の中に伝える方法

① 調査結果をプレスリリースで流す

- ・県と協働して・・・みたいな言い方ができるか

② 伝えるためのツールやメディアを作る

- ・この分析でまとめたような内容をパンフレットにして企業に配布し啓蒙する
- ・ローカルメディアで連載記事を作る
→real local福井、ふーぼ、等
- ・家業についての情報サイトを作る

③ 家業を継ぐ、というキャリアについての「キャリア教育」を授業の一環として行う

- ・進路を意識し始める年代として高校生を対象とする
- ・家業後継者でなくても、将来起業したい方に「第三者承継」という道を提示することもできるのでは？

(授業の例)

- ・家業を継いだ人、第三者承継した人、の体験談を聞くような講演会
- ・家業後継者だけ集めて家業への理解を深めたり自分の気持ちを整理するようなワークショップ